



三ツ石だより

編集・発行

島根あさひ社会復帰促進センター

問い合わせ先

ご意見・ご感想はこちらまで
〒697-0492 浜田市旭町丸原380-15
Tel. 0855-45-8171 (庶務課)

平成23(2011)年

3/1
第7号

旭町の大きな魅力

島根あさひ社会復帰促進センター
更生支援企画官

友繁 俊和



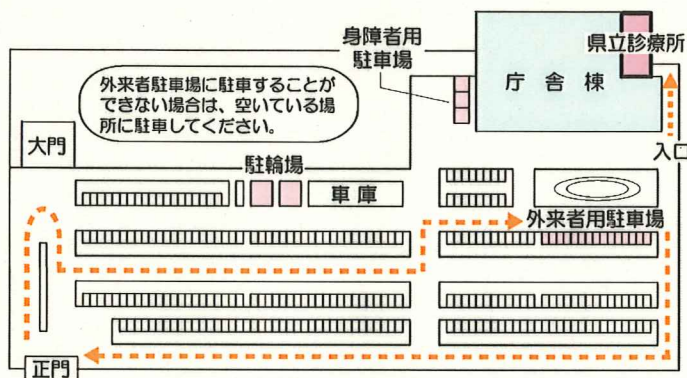
新年を迎えてから、早くも一ヶ月半が経過しました。遅ればせながら、本年もよろしくお願ひ申し上げます。

私が、旭町の住民になって、まもなく一年になろうとしており、同伴した妻とともに、旭町の魅力を全身で感じております。

私が感じる旭町の魅力とは、人の温かさが感じられるところです。昨年の四月、転勤して間もないころ、妻と一緒に旭町周辺をウォーキングしていたときに、すれ違う全ての人達が、見ず知らずの私達に声をかけてくれるのです。私自身、とても新鮮に感じました。

これまで、転勤によりいろいろな場所でも生活してきましたが、旭町のように、見知らぬ人から声をかけてもらうことはありませんでした。それだけ、旭町の人には暖かい心を持った人ばかりであると感じています。自然だめでない、梨だけでない、蜜だけでない、温泉だけでない旭町の大きな魅力であると私は思っています。

「眼科診療」スタート



島根県立島根あさひ社会復帰促進センター
診療所（眼科外来）案内図

島根県立島根あさひ社会復帰促進センター診療所では、さる1月6日、かねてから地域の皆様からの要望のありました「眼科外来」の診療を開始しました。

当センターは「国民に理解され、支えられる刑務所」という基本理念のもと、「地域との共生」「地域との連携を重視した運営」という観点から、構造改革特区法を活用し、一部施設を地域に開放して、地域医療の充実に貢献することをめざし、「眼科診療」について地元医師会の御理解と御協力を得て、このたび診療の運びとなりました。

診療は毎月第一木曜日に行われ、すべて予約制となっています。事前に県立診療所まで予約をお願いします。

診療内容は、コンタクトレンズ処方をはじめ、診療できない場合がありますので、診療予約の際に県立診療所にお問い合わせください。

診療のご案内

- 診療時間
原則として毎月第一木曜日
10:30~12:30
3月以降の診療予定
3月3日(木) 10:30~12:30
4月7日(木) 10:30~12:30
- 予約・問合せ先
0855-45-8166
(受付時間：平日 9:00~17:00)



多くの取材記者が訪れ、訓練生たちも修了式開始直後は、いくぶん緊張した面持ちでしたが、パピーを日本盲導犬協会に引き渡す時は、顔を

最後に、日本盲導犬協会の職員の方々に、パピーウォーカーをはじめとする地域社会の皆様には、第二期の本プログラムの運営に、多大なご協力をいただきました。この紙面を借りて、深く御礼申し上げます。



パピープログラム修了式

一月二四日の月曜日、盲導犬パピー育成プログラムの第二期修了式が行われ、日本盲導犬協会から当センターに託された五頭のパピーを無事に引き渡すことができました。本プログラムは、生後二か月の盲導犬候補の子犬を、一歳になるまでの十か月間、訓練生が飼育していくもので、全国の視覚障害者に対し、不足する盲導犬の頭数を増やすことを目的とすると同時に、訓練生に責任感や人の役に立つ喜びを感じてほしいという思いで、二年前から行われています。訓練生は、パピーの育成を通じて、思ったことや感じたことを、日記に書いていますが、昨年の暮れあたりから、「もうすぐ、この子たちとお別れとなり、とても寂しくなる。」といった記載が目立つようになりました。また、パピーたち五頭も、訓練生の指示に対して、よく従うようになると、今年に入ってから、お別れの時期が近いと悟っているのか、訓練生の足もとから離れようとしなくなり、甘える姿がみられました。

修了式当日は、多くの取材記者が訪れ、訓練生たちも修了式開始直後は、いくぶん緊張した面持ちでしたが、パピーを日本盲導犬協会に引き渡す時は、顔をくしゃくしゃにして、大粒の涙を流す訓練生が多かったです。富田センター長が「困難を乗り越え、責任を全うした結果、社会で必要な多くのものを身に付けたと思う。」と述べると、訓練生代表が、「育成を通して、私たちが大きく成長できた。別れは寂しいが、今日という日を新たなスタートとしたい。」と力強く返答しました。これから、人から愛情をたっぷり受けて育った五頭のパピーたちは、盲導犬となるべく、厳しい訓練期間に入ります。訓練生たちは、式が終わって最後の別れのふれあいの時、立派に成長したこの五頭のパピーたちを前に「これからの訓練に負けるんじゃないぞ。頑張れよ。」などと話しかけていましたが、このような言葉は自分自身に対しても言い聞かせていたのかも知れません。



一月二十九日(土)・三〇日(日)、アサヒテングストーン駐車場で開催された恒例の雪合戦大会に、当センターから、官民合同チームが二チーム、総合警備保障から一チーム、センターで教育・作業を担当しているSSJから二チームの計五チームが参加、応援のメンバーも含め、大会を盛り上げました。

一日目、各チームが予選リーグで二試合ずつ、計一〇試合戦いましたが、通算戦績は三勝七敗、あらためてスポーツとしての雪合戦の厳しさ・奥の深さを思い知らされました。そんな中、SSJのBチームが、予選リーグ二戦全勝の堂々たる成績で二日目の二次リーグに進出しました。

残念ながら二次リーグでは惜しくも敗退しましたが、島根あさひ社会復帰促進センターここにあり”を大いにアピールすることができました。

それにしても時折吹雪も襲う過酷な天候の下、これほど熱くなれるスポーツがあったとは！

奇しくも時間同じくして開催されていたサッカー日本代表戦に負けるとも劣らない盛り上がりぶりに、参加者一同来年も必ず参加し、あわよくば旋風を巻き起こして全国大会に駒を進めるべし、と早くも夢を膨らませています。



汗と涙の ア・ラ・カルト

第13回島根県雪合戦大会 雪合戦 旭 2011

とき：H23.1.29～30 ところ：アサヒテングストーン駐車場

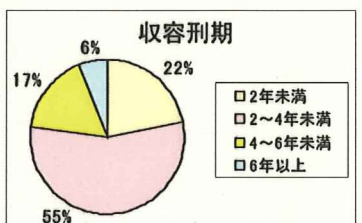
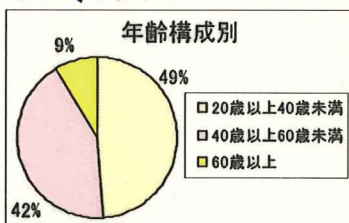
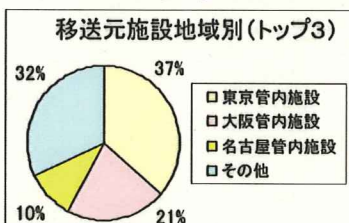
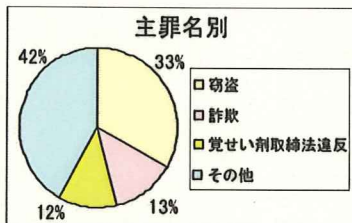
島根あさひRPC	X - O	デンジャラーズ
	X - O	所長出番ですよ
JAILER	X - O	SSJ B
	X - O	チームアフラック
ALSOKあさひ播磨	X - O	うるきいず
	O - X	DRUNKER'S
SSJ A	X - O	益田スノーボーイズ
	X - O	ファクトリー余興部
SSJ B	O - X	JAILER
	O - X	セントラルズ
《2次リーグ》		
SSJ B	X - O	中川家
	X - O	益田スノーボーイズ

第28回 石見地区選抜バレーボール大会

とき：H23.1.30 ところ：島根県立体育館

男子の部 準優勝 旭クラブ

目で見る島根あさひ2010



= S P C 会 社 紹 介 =

NEC

NECは東京都港区に本社を置く、IT(*1)とネットワーク(*2)の両分野において、

ふるさとお国自慢 ～江津市

世界トップクラスの技術を有する世界的にも数少ない企業のひとつです。

このITとネットワークの進化は、社会インフラを変え、人々のライフスタイルやビジネススタイルを変えて、社会全体に大きな変革を起こしています。

NECは、この両技術をさらに進化・融合させることで、安全・安心で快適・便利な「人と地球にやさしい情報社会」の実現を目指している会社です。そのような会社NECは、島根あさひ社会復帰促進センターでは、情報システム管理業務を受け持っています。

当センターでは、大きく分けて警備系システムと総務系システムの2つの情報システムを導入していますが、NECはこの両システムを担当しており、日々コンピュータシステムの安定稼働に努めています。

《注 釈》

(*1) IT: 「情報をどのように活用するか」という技術。インターネットを利用したサービス提供、検索、社内情報の共有システム等。

(*2) ネットワーク: 「つながり」と「運ぶ」ための伝送路。



情報システム管理
業務責任者
佐々木 良香

情報システム管理業務責任者の佐々木と申します。実家は江津市浅利町です。浅利町は人口約1,100人550世帯の町で、日本海に近い位置に町並みを形成しています。ここ浅利町のおすすめ景観ポイントを紹介いたします。

江津市の国道9号線を日本海を左手にして東に進み、浅利トンネルを抜けると、高台に「ラーメン神楽や」という店が目にとまります。この駐車場の手前の広場からは風車と浜辺が一望できる素晴らしい景色が広がります。

青い海に白い砂浜と松林が、浅利海岸から黒松海岸にかけて長く続き、11機の風力発電用の風車がこの風景にひときわ色を加えています。この景色を眺めていると、時間の経つのを忘れ、自然と一体になった自分を感じることができ、気分がリフレッシュされます。ぜひ一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

私の家は日本海に近く、徒歩10分程度で砂浜に出ることが出来ます。松林を通り抜けると、あの高台から見た白い砂浜が現れます。まさに「白砂青松」という言葉がぴったりです。ここに生まれ育ったと思うと贅沢な気分になります。

最近では夏になると、この海岸にも広島からの海水浴客や、サーフィンを楽しむ人をよく見かけます。ただ、人が増えてくると自然も美しさを損ねていきがちになるものです。美しいこの景色を保つ為にも、この地を訪れて帰る人にはゴミひとつ残さずに帰って欲しいと思いますが、残していいのは「思い出」と「足跡」くらいでしょうか。



新芽が芽吹くころ、
母親があぜ道に出てい
た「ふきのとう」を採
って帰ると、それを細
かく刻んで、味噌と砂
糖の味付けでじっくり
炒めます。
味噌の焦げる香ばし
いにおい、ほろ苦い味
がご飯のお供にはもっ
と合います。
遠い昔のおふくろの
味が、早春を迎えるこ
の時期になると思い出
されます。
(A・U)

春の思い出

編集後記